豊浦地域［川棚温泉エリア］再生ビジョン

令和４年３月

下関市

目次

第１章　豊浦地域［川棚温泉エリア］の現状及び課題

1-1　現状 …… 5
1-2　課題及び要因 …… 6

第２章　未来につなぐまちづくり

2-1　地域再生ビジョンの目的及び必要性 …… 9
2-2　10 年程度先を見据えた目指すべき方向性及び将来像 …… 10
2-3　地域を再生に導く戦略 …… 12
2-4　未来につなぐまちづくりのコンセプト …… 23

第３章　地域への持続的な再投資を生むソフト事業計画

3-1　地域資源を活用した独自コンテンツの構築 …… 25
3-2　デジタル技術を活用した独自コンテンツの PR・マーケティング・ブランディング… 28

第４章　交流人口・関係人口の拡大に寄与するハード事業計画

4-1　下関市川棚温泉交流センター（川棚の杜）整備事業 …… 34
4-2　川棚温泉街まちなか景観整備事業（「癒やしの庭」整備事業） …… 43
4-3　リフレッシュパーク豊浦野外ステージ整備事業 …… 50
4-4　舟郡ダム（青龍湖）アスレチックパーク整備事業 …… 56
4-5　響灘・厚島展望公園展望台整備事業 …… 62
4-6　まちをつなぎ、彩る「灯りと音」のサイン計画 …… 68
4-7　下関市豊浦コミュニティ情報プラザ・青龍街道 …… 76
4-8　とんがりぼうし豊浦 …… 78

第５章　各事業の実施スケジュール及び概算事業費

5-1　実施スケジュール（予定） …… 81
5-2　概算事業費 …… 82

豊浦地域［川棚温泉エリア］再生ビジョン（以下「地域再生ビジョン」という。）に記載されている事業等は、豊浦地域［川棚温泉エリア］の目指すべき方向性及び将来像について記載したものであり、事業の内容は、地域の実情、現地の状況等との整合を図る上で変更となる場合があります。

第 1 章　豊浦地域［川棚温泉エリア］の現状及び課題

燦燦礼島（さんさんらいとう）

川棚は、三方をなだらかな山に囲まれ、目前に厚島をのぞむ。里には燦々と光が注ぎ、山の裾野を滑り降りるように、いつも風が吹いている。

瀬戸内海と日本海、ふたつの海にはさまれ、本州最西端に位置する山口県。絶景スポットとして世界的にも知られる角島大橋や、明治維新の舞台となった萩がある北側は山陰地方、日本三名橋の錦帯橋（岩国市）や山口宇部空港を有する南側は山陽地方と呼ばれています。

豊浦地域［川棚温泉エリア］があるのは、山陰地方の西側。美しい輪郭を描く鬼ヶ城連山から、響灘へ向かって裾野が広がっていく…そのなかほどにある川棚温泉は、まるで山の懐に抱かれているようです。温泉地として八〇〇年もの長い間泉を絶やさず、いつの時代も、優しいで湯で、人々を迎え入れてきました。

「川棚温泉は私の最も好きな風景だ。山裾に丘陵をめぐらせ地形において申し分がない」。これは、自由律俳句で著名な俳人・種田山頭火が、川棚で残した言葉です。自由律俳句とは、五七五などの決まりにとらわれず、たゆたう心を自由にうたっていく句のこと。緑豊かで風薫る川棚の雰囲気と、やわらかないで湯を心から愛した山頭火は、旅の中で一〇〇日間ほど滞在し、「ここに庵を結びたい。（中略）ここに死んで、このあたたかい温泉の湧く土に埋めてもらおう」と日記に記したといいます。

いつまでも眺めていたいこころ落ち着く景色と、万人をつつみこむやさしい湯。このことこそが、昔も今もかわらない、豊浦地域［川棚温泉エリア］の閑雅です。

1-1　現状

本州の西の端に位置する豊浦地域（下関市豊浦町の地域をいう。以下同じ。）は、東西約７㎞、南北約 17㎞に広がり、面積は 75.83㎢、温暖な気候に恵まれ、農業や漁業、温泉を主とした観光業を中心に発展してきた地域である。現在では、大型商業施設の進出により豊浦地域内で一通りの買い物ができるほか、平成 30 年にリニューアルされた総合病院と多種・多様な個人医院のおかげで安心して生活できるという、田舎の住み良さと都市の便利さを兼ね備えた町となっている。

また、豊浦地域には、良質なラジウム泉で知られる川棚温泉と、美肌効果に優れる単純アルカリ泉の大河内温泉をはじめ、川棚のクスの森やリフレッシュパーク豊浦など、多彩で魅力あふれる観光資源が多数存在している。これらの観光資源が多くの交流人口を呼び込むことで、豊浦地域は、住み良さと便利さに加え、観光交流による賑わいも兼ね備えた地域となっている。

とりわけ、川棚温泉エリア（豊浦地域のうち川棚温泉街及びその周辺を主とする区域をいう。以下同じ。）は、豊浦地域のほぼ中央に位置し、南北に延びる JR 山陰本線や他市・他地域とをつなぐ国道 191 号・県道の交通結節点を擁するほか、多くの観光資源と宿泊施設が集中しており、観光振興の分野において重要な役割を担うエリアである。

川棚温泉エリアの中心的な観光資源である川棚温泉は、約 800 年の歴史を誇り、毛利家の殿様や長府藩の藩主、湯治を目的とする地元の住民に利用され、江戸時代の中期以降は、湯治や寺社参詣など旅行者のニーズに応える観光地として発展してきた。しかし、近年における川棚温泉の来訪者数（日帰客数＋宿泊客数）は、平成３年の約 51 万７千人をピークに、コロナ禍の到来前であった令和元年にあっても約 28 万２千人にまで減少、さらに、コロナ禍にあった令和２年度にあっては約 21 万１千人となっている。

こうした状況を打開し、かつての賑わいを取り戻すべく、下関市では豊浦地域［川棚温泉エリア］再生計画策定プロジェクト（以下「プロジェクト」という。）を始動させ、このプロジェクトを推進していくための会議（以下「プロジェクト会議」という。）を令和２年３月１日に設置した。このプロジェクト会議は、豊浦地域［川棚温泉エリア］を拠点に活動する市民 13 人（令和４年３月現在）を委員とし、地域再生計画（地域再生法（平成 17 年法律第 24 号）第５条第１項に規定する地域再生計画をいう。以下同じ。）の作成に必要な意見の聴取をはじめ、豊浦地域が抱える課題・ニーズの整理、事業アイデアの抽出と共有、これらをベースにした具体的な事業手法と事業実施体制の検討等を行うための会議である。

これまでに、５回（令和２年５月、９月、11 月、令和３年３月、令和４年３月）のプロジェクト会議を開催したほか、その議論を実りあるものにするために、委員が主体的に意見交換を行うプロジェクト座談会も開催されてきた。すでに、19 件（令和４年３月現在）の検討候補事業がリストアップされており、現在は、事業手法の具現化、事業実施体制の構築等に向けた意見交換や取組を行っている。

JR 山陽本線：大阪・名古屋・広島など主要都市をつなぐ路線（トワイライト・瑞風）

JR 山陰本線：萩・出雲・鳥取などをつなぐ美しい風景や自然を望む、ローカルな味わいのある路線（〇〇のはなし）

⬇

自然豊かなツーリズムの拠点となるポテンシャルを持っている

1-2　課題及び要因

川棚温泉エリアに多くの宿泊施設が集中しているのは前述のとおりだが、そもそも来訪者は、川棚温泉の旅館やホテルへの宿泊だけを目的にやってくるわけではない。

豊浦地域には、川棚地区以外に大きく分けて宇賀、小串、黒井、室津の４地区がある。大字等の単位では、ほかにも吉永、涌田後地、厚母郷及び豊洋台があるが、これらの多くは黒井地区の中に含まれるという位置付けとなっている。

これら川棚地区以外の地区にも、大河内温泉、鳴き砂ビーチうしろはま、エヒメアヤメ自生南限地帯、観光みかん園、鬼ヶ城、黒井観光釣り堀、下関ゴルフ倶楽部、室津海水浴場、室津の鏝絵群、安養寺の大仏等魅力的でバラエティに富んだ観光資源が点在している。

来訪者の目的地としては、これら豊浦地域の観光資源はもちろんのこと、菊川地域の歌野川ダム周辺、菊川ふれあい会館（アブニール）、豊田地域の豊田湖畔公園、豊田ホタルの里ミュージアム、豊北地域の角島大橋、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムなどがあり、旧下関市内の唐戸・長府周辺、さらには長門市、萩市等近隣市町の観光資源も含まれていると考えられる。つまり、来訪者は、これらの多種多様な観光資源を目的地としながら、旅行の中継地点として川棚温泉街の旅館やホテルに宿泊しているとみるのが妥当である。

このような観点で川棚温泉エリアを考えるとき、豊浦地域や下関市のほぼ中央に位置する川棚温泉エリアは、その立地条件を生かして周遊型・滞在型の来訪者を一人でも多く呼び込み、その賑わいや経済効果を豊浦地域全域に波及させることのできる存在として、果たすべき役割は大きく、寄せられる期待は小さくない。 まさに、川棚温泉エリアは、豊浦地域における観光振興の分野において重要な存在であると言える。

では、川棚温泉エリアが、現在どのような状況にあるのか、そして、その川棚温泉エリアをけん引する川棚温泉街にクリアしなければならないハードルがあるとすれば、それはどのようなものか。

高度経済成長期、世の中の観光スタイルは、昼は多くの名所や景勝地を巡って夜は宴会を楽しむという、いわば「団体型観光」で、川棚温泉街もこれに対応しながら最盛期を迎えた。しかし、その後、人々のニーズが多様化していく中で、世の中の観光スタイルは、地域ならではの自然資源や人文資源、産業資源に触れながらスローフードを楽しむという「個人型観光」へと変化してきた。

例に漏れず、この変化への対応が遅れた川棚温泉街では、後継者の不足や建物の老朽化に悩んでいた老舗の旅館やホテルが廃業と建物の取壊しを余儀なくされたことで、昭和中期を彷彿とさせる街並みやノスタルジックな景観が失われ、未活用の空き地や余分な駐車場が目に付くようになった。

その結果、平成 15 年には 14 軒が営業していた宿泊施設は、令和３年の時点で６軒と半数以下にまで減少。近年における川棚温泉の来訪者数（日帰客数＋宿泊客数）は、前述のとおり平成３年をピークに大幅な減少と微増減を繰り返してきた。その要因としては、旅館やホテル、店舗の減少等はもちろんのこと、まちなかの景観やまちなかで得られる体験に抜きんでた魅力（洗練性・独自性・回遊性）が不足していることなどが考えられる。

このような状況下で、旅館や店舗の廃業に歯止めをかけ、さらなる地域の停滞を防ぎ、来訪者で溢れかえるくらいの活気を川棚温泉街に取り戻すには、まず、温泉地らしい情緒ある景観を整えるとともに、「ここを訪れてよかった」と思わせる体験を提供するなど、温泉街としての魅力を総合的に向上させることが必要不可欠である。

地域の特色や資源、多様な人材の創造力を活用し、まちなかや公共施設の洗練性・独自性・回遊性に磨きをかけ、それを来訪者に感じていただくことにより、周遊型・滞在型観光地への転換を成し遂げるとともに、豊浦地域全体を活性化させる先駆けとなることが、川棚温泉エリアと川棚温泉街に課せられた命題である。

【豊浦地域［川棚温泉エリア］が抱える課題】

●豊浦地域全体が抱える課題

1　地産地消をしたい。
2　鹿、猪等の獣害問題を解決したい。
1　名物の食材や料理を増やしたい、創作したい。
1　新規出店を増やしたい、観光客向けの飲食店を増やしたい。
1　関門エリアと長門エリアの中間にある立地を生かしたい。
2　点と点がそれなりに離れているので、移動手段の工夫をしたい。
1　事業者同士の繋がりを強固にして協力し合える有機的な関係を持ちたい、取組や人材を線で繋ぎたい。
2　働き手を増やしたい、後継者問題を解決したい。
3　サービス業で働く人を増やしたい、サービス業をもっと魅力的にしたい。
1　若者の外部流出を食い止めたい、新規流入を増やしたい。
1　おすすめの観光地を増やしたい。
2　地域資源を活かした楽しみを作りたい。
3　町内で４時間以上滞在できる観光のコンテンツを作りたい。

●川棚温泉エリアが抱える課題

A　玄関駅であるJR川棚温泉駅の魅力を上げて活用したい。
B　JR川棚温泉駅から温泉街までの景観を歩いて楽しめる状態にしたい。
C　温泉地としての統一感を感じられるような、愛着が持てるような景観を作りたい。
D　史跡やその周辺の道路を整備したい。
E　来訪者が分かりやすいように、温泉街がどこからどこまでなのかを明確にしたい。
F　夜の景色を演出したい。
A　瓦そばだけでない、食の提案をしたい。
A　偉大な人物に愛された温泉の本質をアピールしたい。
B　「おすすめの温泉は」と聞かれて答えられるようにしたい。
C　立寄湯ができるところを増やしたい。
D　源泉の温度が（38～42℃）と低く、湯量が豊富でないのを解決したい。
E　温泉の維持費が高く、他の設備に手が回らないのを解決したい、リーズナブルにたくさんの温泉を活用したい。

A　まち歩きに適した道路にしたい、案内看板を分かりやすくしたい。
B　そぞろ歩きを楽しめるように、商店・飲食店・宿泊施設（シングルルームを含む。）を増やしたい、滞在時間を長くしたい。
C　「この周辺で見て回れるところは」と聞かれて答えられるようにしたい。
D　空き地・空き家・空き店舗を利活用したい。
E　夜に楽しめるコンテンツを作りたい。
A　海との近さをアピールしたい。
A　宿泊の決め手になるようなイメージやシンボルを作りたい。
B　角島・元乃隅・唐戸・萩・湯本への経由地ではなく目的地になるように、これらとの競合優位性を見出したい。
C　守護神・青龍が見守る温泉地として、神事や祭事、文化が息づくまちであることをアピールしたい。
D　800年の温泉情緒、時間の積み重ね、人の温もりを演出したい。